

宮津港 港湾侵食対策事業 (宮津市矢原・天橋立・江尻)

宮津港の天橋立は、長年北側からの大量の土砂の流入により、砂州が形成されてきましたが、近年供給土砂の減少する一方で、上流側の船溜りでは土砂が著しく堆積する現象が起きています。そのため、堆積土砂を不足箇所に運搬することにより、沿岸域における適正な土砂管理を図ります。

江尻地区・矢原地区においては、老朽化した既存護岸の機能回復を図り、海岸災害から背後地の住民や資産を防護し海岸保全を図ります。併せて、既存の直立式護岸から親水性を高めた緩傾斜式護岸にタイプ変更し、地域住民や観光客の憩いの空間を創出します。

平成21年度は、養浜、護岸改良工を実施します。

◎事業概要

全体計画	H20までの実績	H21計画
事業期間：H8～H30 工種：養浜工、護岸改良工、 突堤覆砂工 総事業費：2,675百万円	事業概要：養浜、 護岸改良工 事業費：1,198百万円	事業概要：養浜、護岸改良工 事業延長：10m（矢原地区） 60m（江尻地区） 事業費：90百万円

◎事業効果

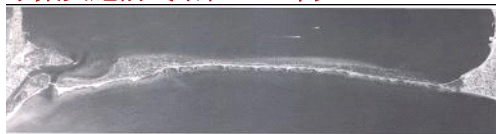
- 護岸整備により、背後の府道の安全な走行に資することができます。
- 親水性向上により、地域住民および観光客の憩いの場が創出されます。

位置図・写真

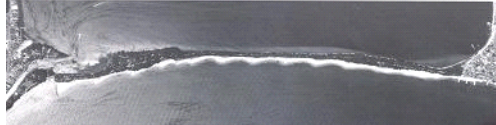


天橋立地区

事業実施前〔昭和50年〕



事業実施後〔平成6年〕



事業実施後



矢原地区



事業実施後

